

# 先取り「懐憲」

## 新防衛大綱・中期防衛力整備計画

「防衛計画の大綱」は防衛政策の基本指針となる新たな指針。中期防衛力整備計画（中期防）は防衛大綱に則って2019年から5年間に調達する装備などを定めたもの。2018年12月18日に閣議決定された。



### 新防衛大綱の概要案ポイント

- 宇宙やサイバー空間といった新領域の対応能力の早期向上を優先
- 人工知能(AI)やレーザーといった最先端技術に重点投資
- 日米同盟は「一層の関係強化が、これまで以上に重要」と指摘
- 自衛官の採用層の拡大や定年年齢の引き上げ実施を記載
- 安全保障環境は厳しさと不確実性が増しており「従来とは異なる速さで防衛力を強化する必要がある」と強調

### ◆ 問題はここ

- 官邸主導＝国家安全保障会議(NSC・議長 安倍首相)が改定を主導
- 武器導入が先行＝初めに武器の予算化があり、新大綱で後付け。
- 狙いは実質的「改憲」＝「専守防衛の放棄」と「日米一体化の総仕上げ」
- 安保法制(戦争法)の発動を具体化  
いずも型護衛艦を改修し「空母」に。米海兵隊や英海軍のF35戦闘機の訓練
- 「専守防衛」を武器の面から終わらせる  
F35ステルス戦闘機導入。長距離巡航ミサイルの導入。長射程ミサイル群の保有
- 対中シフトへの傾斜 南西諸島の大軍拡の加速
- アメリカ製兵器の爆買い  
イーグリスアショア 6000億円超 F35戦闘機 105機追加購入など
- 自衛隊のグローバル展開の強化 シブチ基地の長期的・安定的な活用など

